

流山市真言宗豊山派
布教紙

第127号



編集者
西栄寺副住職 栗山秀隆
光明院 住職 椎橋友都

事務局 流山市桐ヶ谷230 西栄寺内
TEL 04 (7158) 0846

印刷 自盛堂印刷所
流山市流山7-645

題字 中村素堂

発行者	〇印	兼務住職	
円東寺	住職	増田俊康	
観音寺	住職	大塚蓮盛	
	名誉住職	大塚雄盛	
光明院	住職	椎橋友都	
円頓寺	〇住職	椎橋友都	
金乗院	〇住職	椎橋友都	
西栄寺	住職	栗山秀純	
	副住職	栗山秀隆	
西善院	住職	栗山秀祐	
長栄寺	〇住職	栗山秀純	
浄観寺	住職	渡会瑞顕	
清浄寺	住職	渡会玄誉	
慈眼院	〇住職	渡会瑞顕	
東福寺	住職	松崎慈恵	
福性寺	住職	勝又俊利	
	副住職	勝又俊文	

真流

弘法大師ご生誕千二百五十年

本年令和五年は、弘法大師空海上人のご生誕より千二百五十年を迎えると言われます。現在まで広くに言い伝えられる弘法大師のご生誕の日付は、宝亀五年(七七四)六月(水無月)一五とされています。この時代、ほとんどの場合生年月日が記録されることはありませんでした。そこで、他の記録される年代より辿って、例えば得度の太政官符、あるいは二十四歳の時に『誓誓指帰』が書き上げられ、その日付が延暦十六年(七九七)十二月一日であることなどよりして、多くの場合ご生誕を前記の日付とされてきました。

大師は、讃岐ノ国多度ノ郡屏風ヶ浦で、佐伯直田公の子として生まれ、幼名を真魚と呼ばれました。のち、十五歳とされる頃、都に出て母方の叔父



阿刀大足について漢学を学び十八歳で大学に入学したと言われます。しかし、そののち大学での漢学(儒学)に飽き足らず、先の『誓誓指帰』の処でみたように、二十四歳で仏門に入ることを宣言されました。一説には二十歳で剃髪して沙弥戒を受けたともいわれます。そののち『三教指帰』を著述し、山林に分け入り山岳修行に入ったと言われ、その場所としては阿波の国大滝岳、土佐の国室戸岬、伊予の国の現在の金山出石寺の地、同じく伊予の石鎚の峰が挙げられています。

その後は、延暦二十二年(八〇三)出家し入唐したとされます。そして困難な航海や旅路を経てついに唐の地において恵果阿闍梨に巡り合い密教の奥義全てを授かります。そして、帰国して後は真言宗を開宗して多くの業績を残されたことは衆人の知る所となっています。